

【国際シンポジウム】

韓国朝鮮研究の新たな課題: 文学、文化実践、歴史学を糸口として

한국학의 새로운 과제들: 문학·문화 실천·역사학을 실마리로 하여

(日時) 2026 年 11 月 7 日(土) 10:00~18:00

(場所) 東京大学 駒場キャンパス 21KOMCEE East K214

(使用言語) 日本語 or 韓国語 (通訳なし)

【Opening Remarks】 (9:50-10:00) 渡辺直紀(武蔵大)	1940 年代野談移動公演の身体性: 朝鮮語空間 の再編と戦争システムの中の野談の逆説 ——朴多情(東京大)
【Session 1】日朝／日韓の知的ネットワークと 「文学」の生成 (10:00-12:00) (司会) 相川拓也(東京大)	(討論) 金牡蘭(早稲田大) 金景彩(慶應大) <Coffee Break>
『漢城新報』の叙事文学資料(1904 年)について ——伊藤知子(拓殖大)	【Session 3】歴史葛藤と向き合う: 朝鮮史研究・ 教育の課題 (15:15-17:15)
尹東柱の詩における「言語空間」 ——金雪梅(東京外大)	(司会) 関東曄(都留文科大) 「ニューライト歴史学」と「植民地近代化」論に関 する覚書
帝国の学知と金台俊の文学史 ——柳忠熙(福岡大)	——三ツ井崇(東京大)
1970 年代日本の韓国文学研究と「親日文学論」 ——崔泰源(専修大)	古代をめぐる「似而非歴史学」の動向 ——植田喜兵成智(早稲田大)
(討論) 高橋梓(新潟県立大) 相川拓也(東京大)	植民地期史学史研究の可能性と課題: 日本及び 植民地朝鮮における歴史教育の内面化と知 の再編
<Lunch Break>	——上山由里香(早稲田大・学振 RPD)
【Session 2】植民地期の文化実践とメディア: 制 度・受容・感性の交錯 (13:00-15:00) (司会) 金景彩(慶應大)	(討論) 関東曄(都留文科大)
笑いと国民: パロディとしての植民地朝鮮国民 演劇 ——金牡蘭(早稲田大)	【Wrap-up and Closing Remarks】 (17:20-17:50) (司会) 渡辺直紀(武蔵大)
「韓国近代美術」という枠組み: 越境する芸術家 から考える韓国学の射程	登壇者・参加者全員
——申旻正(韓国外大)	[access to Komaba] [campus map]
植民地朝鮮における音楽メディアと感性の統 治: 帝国日本の文化権力を中心に ——金志善(龍谷大)	 

【主催】 東京大学大学院総合文化研究科グローバル地域研究機構韓国学研究センター + 早稲田大学
朝鮮文化研究所 + 慶應義塾大学理工学部外国語・総合教育教室 + 韓国研究院

【問合せ】 渡辺直紀(武蔵大) wata2002[a]hotmail.com / [a]=@を入れて下さい